

第3期宮前区区民会議 第3回 活力づくり部会 摘録

日 時 平成22年11月24(水) 18:00～20:00

場 所 宮前区役所4階会議室

参加者 委 員 山下委員長、直本副委員長、佐藤部会長、浦野委員、岡田委員、
田邊委員、豊島委員、手塚委員、藤田委員
恒川副委員長(オブザーバー)
事務局 岩佐企画課長、豊田担当係長、鈴木職員
阿部(コンサルタント)

1 部会長からの挨拶

- ※ 直本副委員長が佐藤部会長の決定および直本副委員長が部会長のサポートをしながら会議を進めていくことを報告。
- ※ 佐藤部会長より挨拶。

2 前回のふりかえり

- ※ 事務局より「資料3 活力づくり部会の検討経過」を用い、これまでの検討経過を説明。

3 他自治体の坂道を活用した取り組みの事例紹介

- ※ 事務局より目黒区(坂道ウォーキングのすすめマップ)、広島県坂町(ようよう坂町ウォーキングイベント)、座間市(第1回ZAMA坂道マラソンイベント)の3事例を説明。

佐藤 マップについては、ウォーキングの時の持ち運びやすさ(重さ、大きさ等)を考えることも大切。目黒区のマップは行政だけでつくっているのかどうか知りたい。

豊島 宮前区にも「みやまえ子育てガイドとことこ」という子育てガイドがあり、お母さんたちの目線で作られている。

佐藤 平瀬川流域まちづくり協議会は持ち運びやすさを考慮していくつかあるコースごとにマップをつくっている。

4 「坂」の切り口

藤田 坂道を活かすためには他地区事例のような取り組みが必要になると思う。取り組み方として、まずはコミュニティの場に出てきてもらうためのイベントがあり、普段取り組むことができる継続的な取り組みが必要だと思う。うまく組み合わせたい。

浦野 坂を活かしたコースをつくり、夏休みのラジオ体操のように、実施時間が決まってい、指導してくれる人がいるような定期的な取り組みがあるといいのではないか。口コミで広がっていくかもしれない。

佐藤 公園体操は当初数ヶ所での開催だったが、徐々に広がり参加人数が増えている。

浦野 全ての人が取り組みを知ることは難しいが、1度大きなイベントをやって、坂道の歩き方を指導し、そのときにパンフレットを配り、口コミで広げられるといい。

佐藤 広島県の坂町ではウォーキング前と後に血圧等を計測したり、歩き方を指導してくれる人がいるようだ。

第3期宮前区区民会議 第3回 活力づくり部会 摘録

浦野 月1回のイベントで歩き方や血圧の測り方を指導して、あとは時間と場所が決まっていればいつでもできる。血圧を測れるところがないのであれば、フロントタウンを利用してもらえれば良いと思う。

佐藤 自分が楽しめることであれば、参加してもいいと思うはず。サラリーマンの帰りがけや、主婦が子どもにご飯を食べさせて外出できるような夜の時間帯に夜景のきれいなコースを回ったり、桜の季節であればたまプラザをまわったりできるとよい。着替えをする場合は、フロントタウンに更衣室を借りられるとよい。家に一度帰ってまだまた外出するのは嫌だと思う。

豊島 夜間に人が歩けば、犯罪の抑止力にもなるのではないか。

手塚 継続的な取り組みをやるのはいいが、毎月やらなければいけないのだろうか。

浦野 その月が無理でも次の月にいけばいい。隔月でもいいと思う。

手塚 毎月やっていると行かなくちゃいけないという気になり、重く感じる。

佐藤 それは仕掛ける立場でのことか。参加する立場でのことか。

手塚 仕掛ける立場でのことである。

浦野 仕掛ける側を1人でこなすのは難しい。自然に人が集まるような仕組みをつくるイベントをやってみて、それをもとに継続的な取り組みにつなげられるとよい。

佐藤 広島県坂町では、毎回異なる団体がコースを企画しており、マンネリ化しないようにしている。また、それが負担の分散にもなっている。

浦野 フロントタウンも全てに関わることはできないと思うが、その取り組みを支援することはできると思う。

豊島 ラジオ体操はスタンプを押印やノート等がもらえることが楽しみだった。

田邊 イベントをやるのであれば、広島県坂町のように、いろんな団体や行政と連携が必要になる。公園体操は地道な活動の結果、大きくなってきた。宮前平グリーンハイツは7、8年前に参加者2、3人から始まり、今では宮前平グリーンハイツの人だけでなく、宮崎台などから人が集まるようになり、毎日25〜35人程度集まっている。行政やいろんな団体を巻き込むことによって、長く続け、数多くの人が集まると思う。また、コミュニケーションの場になっていくと思う。

岡田 運用面でどこまで人的資源をさけるかだと思う。歩く、歩かないを関係なく言えば、坂の標識を携帯電話等で写真を撮れば粗品をプレゼントしたり、クイズ感覚でホームページなどにある坂の写真と同じ写真を撮ったら、何かをプレゼントしたりする方法がある。スタンプラリーをやっても、ポイントに人がずっといられるわけではないと思う。

佐藤 例えば、寺のどこかに言葉を一文字隠しておいて、いくつかの神社を回るとひとつの言葉になるということをやってもいいのではないか。スタンプを預かる人に迷惑がからなくていいと思う。

岡田 いちばん良いのは近隣のお店にお願いすることだが、難しいと思うし、近くに公共施設があるわけでもないと思う。Felica 端末（フェリカ、非接触 IC カード技術、端末は1万円程度で購入可能）の普及率が高いので、坂の標識を改造して設置することも考えられる。バッテリーは1週間程度もつので、あとは雨に濡れないようにすればいい。それでスタンプが貯まっていくようにすることができる。

第3期宮前区区民会議 第3回 活力づくり部会 摘録

佐藤 若い人向けのやり方とそれ以外の方向けのやり方の2パターンあってもいい。

藤田 若い人を参加させることは重要。

山下 自治会で平成19年あたりから60回程度ウォーキングをやっている。歴史に詳しい人が案内をしてくれている。そういうのも非常に面白いと思う。

直本 マラソン大会やウォーキングは、興味がある人ならどこにでも行く。そういう人たちを引き込むことも必要だが、出るか出ないかで迷っている人が1回ぐらい行ってみようと思うイベントを考えないといけない。イベントだけでなく日常的に誰でも一人でもできるものがあるといい。それを分けて考えていかないといけない。

藤田 パンフレットを渡して歩きなさいということだけではいけない。年に1度のイベントでいくつかのコースのうちの1つをやってみて、残りのコースについてはイベント以外のときに自由に回ってもらえるといい。

山下 目黒区のパンフレットは元マラソン選手の宇佐美氏が描いている。宮前区でもこういった有名な人が関わってくれるといい。マラソン、ウォーキング、マップと3つくらいのやり方があると思う。世田谷では第5回世田谷246ハーフマラソン(11月21日(日)開催)が行われた。交通規制などどのようにやっているのか。

藤田 マラソンといえば、42.195kmだが、それだけの距離を交通規制で止めるのは難しい。

恒川 坂の名前は子どもの時から知っているが、区内の坂は意外と知られていない。

藤田 昔から名称を持つ坂道は5か所。その他に13ヶ所あるようだ。

山下 18ヶ所に坂の標識はあるのか。

事務局 当時の区の事業で18ヶ所の坂に標識をつくった。

山下 実際に坂を数えると40ヶ所くらいある。目黒区は33ヶ所しかない。宮前区は目黒区より坂のまちという特色があるといえる。

佐藤 ウォーキングは様々なところでやっていて、距離をみると、長過ぎて参加するかどうかが迷う。自転車を活用できないかと思う。参加者をある程度的人数に制限してコースを回ってみてもいいかもしれない。

恒川 まち歩きをやっているが、距離は4km程度である。4kmの間には必ず坂道が入る。まち歩きの際には、必ずトイレが問題になる。宮前区は必ず坂や名所・旧跡があり、4kmでも非常に面白いまちで、参加する人はどんどん増えている。

佐藤 距離が長くても、歩く人によって興味は様々なので、内容によるところが大きい。子連れもターゲットにしていけるといい。

田邊 歩き始めて間もなくの子どもをターゲットにするのは必要だろうか。少なくとも小学校の児童以上でなければ大変だと思う。

佐藤 それは継続的な取り組みでカバーできると思う。

藤田 イベントでは歩行者と自転車を一緒にするのは無理だと思う。

佐藤 いろんな年代が参加しやすいような取り組みにしていければと思う。

恒川 日常の個人的なウォーキングを対象にするのか。イベントを対象にするのか。仕掛け方を考える必要があるのではないか。

佐藤 今は内容を検討する段階。今後具体的な手法を考えることになるのではないかと。

恒川 サイクリングはあっているのではないかと。

藤田 宮前区は他区に比べ、自転車保有率は低い。だから関心は自転車にならないと思う。

第3期宮前区区民会議 第3回 活力づくり部会 摘録

田邊 歩いたりマラソンしたりする距離は様々な距離設定をしていいし、同じコースでも1年間に4回歩くと、四季折々の草花が見られて、それだけでも楽しめる。無理にコースをつくらなくても行政等のマップで歩くコースが紹介されている。

直本 マップに坂道で楽しめるイチョウ並木、春にはたけのこがみられる竹やぶ、景色がよい場所などの情報が入ると良い。

佐藤 カルタの情報を活用してもいい。現在情報収集をしているが、ある場所に情報が集中している。集中するということはそこに興味があるということなので、そういったところから情報を得ることが考えられる。

山下 長崎県は細くて長い坂があり、歩くだけでは大変。坂の対策として何かやっているのだろうか。交通対策なども気になる。

直本 坂道をコースに設定して、その坂道の沿線に住んでいる人から坂道ガイドボランティアを募集して、土日に協力してもらえる人をつくってもいいのではないかな。

直本 宮前区の場合は区民のほとんどが坂を通らないとどこにも行けなくらい生活に身近であることは他の地域とは違う点ではないか。

豊島 坂道を後ろ歩きで歩いている人を見た。それも健康のひとつなのかなと思った。

岡田 目黒区のマップは6700部売れているというが、買った人全てが歩いたわけではないはず。目黒区の高齢者の健康にどれだけ寄与したかは分からない。目黒区にとってはプレゼンスが上がっているということだと思う。そうであれば、例えば、iPhoneアプリ※を製作してはどうか。iPhoneにある電子コンパスやGPSといった機能を活用して、実際歩いた場所にお勧めとして紹介することができる。これまでに行政がiPhoneアプリ※を製作した事例はまだないはず。ダウンロード数も見えるし、プレスとしても取り上げやすいと思う。宮前区約20万人のうち、10%がiPhone持っているとして、自分のまちに無料で使えるアプリがあれば、それを使いたいと思うはず。6700人は軽く超える数字になる。ただし、それによって誰が坂道を歩くかと言われたときに若い人しか歩いていないということで批判を受けるかもしれない。

※iPhoneアプリとは

Apple社の開発したiPhone等専用で作成された様々なアプリケーションのことで無料のものから有料のものまで多岐にわたる。ゲーム、ビジネス、教育、天気、ニュースなどのカテゴリがある。

5 「坂」以外の切り口

直本 神社や階段といったものがあるのではないかな。

田邊 健脚でない人のために、坂に限らず平らなところを歩く方法もある。山坂ではなく、谷を歩くということでもいいと思う。谷を歩きつつ、坂も少し歩くということでもいいと思う。坂の上り下りだけではつらい。

恒川 宮前区は梅や桜もある。そういったものも取り込んだほうがよい。

藤田 小さい公園が多いことも特徴といえるのではないかな。

佐藤 平瀬川で子どもたちが笹舟をつくって、笹舟レースができないかと思うが、護岸になっていることがネック。

藤田 平瀬川は川辺に降りられるところが何ヶ所かあるが、それ以外の川は川面に接することができない。

第3期宮前区区民会議 第3回 活力づくり部会 摘録

豊島 橋の名前は昔からついているのではないか。

手塚 ただやるだけではなくて、これをやったら何かもらえるということがあったほうがよいのではないか。

直本 河川敷を活用しての活力づくりはないだろうか。

山下 平瀬川以外には立派な川はない。

佐藤 宮前区は団地が多い。団地からあまり出てこない、孤独死といったことへの対策として、例えば団地の外周の距離を示したようなマップをつくれぬか。高齢者が多いと思うので、団地周りで個々にリハビリができるようになると良い。その他階段を上がることで得られる成果についてもわかるとよい。コミュニケーションはとれなかったとしても、いつも顔を合わせるだけの関係でもできると良い。

直本 階段の多い団地やマンションを取り上げられると良い。

山下 広島県坂町の事例にあるような階段アートも面白いと思う。

直本 坂を中心にして、坂の周辺に何があるかを調べて、他の資源についてポイントとしてあげられるものはあげたらいい。

6 次回議題について

佐藤 既にあるマップなどで設定されているコースを使ってもいいのではないかという意見もあったが、その他になぜ目黒区の取り組みが注目されたかといった事例を聞く機会を設けることができるが、どうか。

藤田 坂道はネーミングにすぎない。ウォーキング、マラソンなどどのテーマをもって活力づくりにするのかを決めないといけない。

佐藤 それを考える上で、他地区の取り組みを聞いてから決めてもいいかもしれない。

直本 坂の中で絞りをかけないということか。

佐藤 他地区の取り組みを聞いてみて、坂がいいということであれば、坂にするし、次回までに坂以外のことを考えるということでもよいと思う。次回に向けてどうするか。

手塚 まだ方向性決めなくてもいいと思う。

田邊 座間市の取り組みについて良かった点、反省点などを聞くのもいいかと思う。また、見に行くのもいいかなと思う。

豊島 決めなくてもいいと思う。

恒川 今日答えを出す必要がないのではないか。

佐藤 次回は坂と坂以外のことで議論を進める。「資料4 アイデア出しメモ」にあるように、自分がイメージしたコミュニティづくりはどんなターゲットを対象にして、いつやったらいいか、関わる人はどんな人がよいか、どんな人が手伝ってくれるかといったことを整理すれば、発言もしやすくなると思う。イベント、継続的な取り組み、マップなどが連携することや、出ようかどうか迷っている人を引き込むことを意識しながら考えてほしい。事例について話を聞く必要があるかどうか。話を聞くということであれば事務局に早めに相談したいと思う。フォーラムのときに呼ぶこともできる。

目黒区や座間市の事例については聞かず、意見を再度出し合うということでもよい。自分の考えを整理する作業はできれば宿題としたいところ。事前に事務局に送れる人は送ってもらえるといいと思う。

第3期宮前区区民会議 第3回 活力づくり部会 摘録

直本 もう少し方向性が決まってからでないと、みんなのイメージがばらばらで、集めてもただ意見を出すだけになってしまうと思う。方向性が決まってから集約したほうがよいと思う。

佐藤 自分の考えの整理については、整理するのみとし、次回資料を再度持ってきてもらい、説明してもらおうこととしたい。所属する団体の会議や近所の人に坂道のことについて聞いてみてもらえるといい。

また、事務局にいつまでにどの程度決めなければいけないというスケジュールが分かる資料を出してもらおう予定としている。

7 今後の会議スケジュール

※ 第4回活力づくり部会は平成23年1月21日（金）18時から行う。

（以上）